

(4) ICT 環境の整備	←											→
(5) 知事部局との連携												
(6) 指導主事による指導	指導 助言		指導 助言	指導 助言			指導 助言		指導 助言	指導 助言	指導 助言	
(7) 研修等の実施									支援	開催		
(8) 研修旅行等の支援		計画					実施	計画				実施
(9) 運営指導委員会開催				開催								開催

(2) 実績の説明

人的支援として、SGHの研究実践のため教員1名を加配するとともに、充実した研究活動を行うため、指導力の高い教員の戦略的な配置を行った。また、ALTを引き続き2名配置とした。さらに、海外交流アドバイザーを配置し、本校生徒の海外での活動についてコーディネートなどを行った。海外研修の旅費等については、引き続き特別な配慮を行っている。

研究開発の指導については、運営指導委員会を7月28日、2月9日に開催したほか、指導主事による学校訪問などを通して年間計画の進捗の確認・指導や事務手続きについての助言等を行った。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 3つの課題研究に必要な基礎力養成プログラム(第1学年)												
①「現代へのあゆみ」	←											→
②「グローバル国語」	←											→
③「グローバル英語」	←											→
④「SFU」	←											→
⑤リーダーとしての技能・態度の育成					←	→						
(2) 3つの課題研究に必要な基礎力養成プログラム(第2学年)												
①「現代の課題」及び「現代の課題α」	←											→
②「グローバル英語」	←											→
③「総合的な学習の時間(奈良TIME)」	←								→			
④海外研修	←											→
⑤「アドバンスコース」				←			→					
⑥海外に関わる外部他校との交流支援	←											→
(3) その他の取り組み												
①Webページ掲載等広報活動	←											→
②外国人留学生と協働したフィールドワーク			←	→			←					→
③UNWTO 主管の国際会議への参加				←	→					←	→	
④海外留学に関する支援	←											→
⑤研究開発成果の普及							←	→		←	→	

(2) 実績の説明

〈3つの課題研究に必要な基礎力養成プログラムの開発（第1学年）〉

① 第1学年「現代へのあゆみ」

- ・講義や講演を通じたインプット活動では、早稲田大学の真辺将之教授に「歴史を学ぶということ」というテーマで講演いただき、歴史を学ぶ意味や、新たな視点で物事を考えることについて学んだ。
- ・課題研究を通じたアウトプット活動では、現代社会の諸問題はなぜ起きているのかを歴史的観点から学び、また、「奈良発“未来”を“創造”するグローバル・リーダー」の育成を図るため、地元奈良県というローカルな面と現代の諸問題におけるグローバルの面を学び「奈良の魅力発展プロポーザル」と題して、「SGH研究発表会」に向けて発表を行った。

② 第1学年「グローバル国語」

- ・コミュニケーションを学ぶ機会として平田オリザ氏（東京芸術大学特任教授・劇作家・演出家）と新口絢子氏（NHK奈良放送局アナウンサー）を招聘し講演会を実施した。その後、インタビュー、プレゼンテーションなどの学習を実施した。
- ・夏季休業、冬季休業中にはSFUと連動した課題読書、休み明けにブックトークを実施。
- ・3学期はディベートを実施した。生徒自身がテーマを選んで準備することにより、主体的に課題に取り組む姿勢を備え、データを基に意見を工夫して論述する力を養い、身近な社会問題への興味・関心を高めた。

③ 第1学年「グローバル英語」

- ・国内外、日常生活等における様々な問題を取り上げ、「読む」「聞く」活動、「調べる」活動を通じて情報・知識を手に入れ、「書く」「話す」活動を通じて、異なる考え方に触れた上で、自分の意見を再構築し、それを正しく伝えられる力の養成を図った。クラスを半数に分割する授業形式により、ペアワークやディベートに向けたきめ細やかな指導を行った。

④ 第1学年「SFU」

- ・月曜日から金曜日までの登校直後の10分間、課題研究のテーマを中心とした文章（和文、又は英文）を読み、疑問点や気付きを短文にまとめた。課題研究に関連した現代の諸問題に関して自分の考えや意見をまとめることを継続的に実施し、「現代へのあゆみ」や「グローバル英語」「グローバル国語」における主体的な学びの基礎力の充実を図った。

⑤ リーダーとしての技能・態度の育成

- ・8月7日に京都大学見学会を実施。本校生38名、京都大学生(本校卒業生)4名、海外留学生6名が参加して、模擬講義や海外留学生との交流会を実施した。交流会では、本校生から英語で学校紹介のプレゼンテーションを行った。午後からは京都大学生の案内で、研究室及び構内見学を実施した。
- ・10月1日に早稲田大学の模擬講義を本校で実施した。本校生16名が参加。社会学部教授北村能寛氏を招聘し、「赤字財政はなぜ問題か？国際間の資本移動から考えよう」という内容の講義をいただいた。

〈3つの課題研究に必要な基礎力養成プログラムの開発（第2学年）〉

① 第2学年「現代の課題」「現代の課題α」

[現代の課題]（2年生全員）

- ・インプット活動では「奈良県の予算」「生命倫理」「環境問題」「経済（特に国際経済）」「18歳選挙権」といったテーマを中心に学び、授業の中でいくつかの課題を示し、その課

題についてグループで議論と発表をさせた。また10月の海外研修に向けて、シンガポールの発展についての事前学習も行った。

- ・アウトプット型の授業では、1学期に行った「奈良 TIME」フィールドワークをもとに、夏期休業中に県内の課題についてレポートを作成し、その内容を基本として課題研究のグループ分けをして2月の「SGH研究発表会」に向けて中間発表及びクラス別発表会を実施した。

[現代の課題α] (2年生アドバンストコース、1、2年希望者)

- ・以下の内容の講座を「現代の課題α」を選択しているアドバンストコースの生徒とそれ以外の受講希望者を対象に行い、各自の課題研究テーマの深化を図った。

「シカに食われる日本の森林―生態系のバランスが壊れたとき―」(長野 秀美氏 [京都大学大学院博士課程])

「UNESCO 世界遺産教室」(久保 美智代氏 [フリーアナウンサー])

「(JICA による国際理解講座) 世界で一番命が短い国シエラレオネの現状と課題～そこから考えた国際協力とは?～」(藤井 千江美氏 [モリンガの郷代表 (元 JICA カンビア県地域保健行政マネジメント強化プロジェクト担当)])

「持続可能な開発目標と観光 (講演とグループディスカッション) [英語で実施]」

(アリアナ・ルキン・サンチェス氏、吉田 順子 氏 [UNWTO])

② 第2学年「グローバル英語」

- ・1学期には、人間関係や社会問題をテーマに4回の即興ディベートを実施した。「よい聞き手」「よい話し手」を目指す継続的な活動の成果で、生徒たちは的確な反駁を展開していた。
- ・2学期には個人プレゼンテーション、3学期にはより「よい話し手」へつながることを期待してグループで「スキット」を行った。これらの活動を通じて、コミュニケーションが話し手と聞き手の双方の関わりによって成り立つことを、生徒たちに実感させることができた。

③ 第2学年「総合的な学習の時間 (奈良 TIME)」及び「海外研修 (シンガポール・マレーシア)」

- ・5月から6月にかけて午後の時間を利用して計3回事前学習に取り組んだ。15のフィールドワーク先を3つの課題領域のグループに分けて、1回ずつ参加出来るようにした。フィールドワークでの学習は「現代の課題」での夏期課題「未来への提言～First Stage」において個人レポート作成の素材となった。
- ・海外研修については、各クラス4名の海外研修委員を選出し、海外研修を生徒自らが計画し、自律し、実行していくことを目指し、「観光・歴史遺産」「国際協力」「生命と環境」を大テーマとしてコースと研修内容を決定した。

④ 第2学年「アドバンストコース」

[平成29年度生]

- ・3月に交流校であるオーストラリアのバイロンベイ高校への海外フィールドワークを実施。授業に参加し意見交換を実施するとともに、本校生の課題研究を英語で発表・質疑を行った。また、学校周辺へのフィールドワークを実施して研修を深めた。帰国後、研修の内容について、学年集会の中で本校生に報告した。
- ・7月の「未来創造会議」において運営や進行、記録そして発表について核となって活躍した。また、自由な発想による各種の提案を英語で実施した。

[平成30年度生]

- ・「現代の課題α」の外部講師を迎えての講座に参加してグローバル課題についての研究を

深化させるとともに、3月実施予定の交流校への海外フィールドワークに向けて、事前学習と課題研究発表の準備を実施している。

⑤ 課題研究に関わる外部他校との交流支援

- ・10月31日から11月1日にかけて和歌山県和歌山市において開催された「『世界津波の日』2018 高校生サミット in 和歌山」に当校から3名の生徒が参加した。フィールドワークを体験するとともに、世界48カ国から240名、国内51校から136名の生徒が参加し、英語を公用語とする高校生の国際会議である。本校生徒は、第三分科会「災害から生き抜く」において希望して分科会司会を務め、調査内容を英語で発表し、続いて質疑、ディスカッションを行った。なお、会議内容については、参加生徒3名が2月に開催した「SGH 研究発表会」において1、2年全生徒及び参加保護者等に分科会発表の内容を交えながら報告を行い、防災や異文化交流の意義を訴えた。

〈その他の取組〉

① Web ページの掲載、新聞・テレビ等を活用した広報活動

- ・Web ページのフロントページにSGHのバナーを設け、その取組をすぐに閲覧できるようにしている。また、Web ページ中で生徒の様子や取組を随時掲載することにより、世間により広くSGHの取組を周知することができている。
- ・海外の交流校に見てもらふことを想定し、英語のWeb ページも公開している。本校の紹介やアクセス等の情報を載せている。SGHの取組についても英語で紹介している。

② 外国人留学生と協働した研究活動・フィールドワークの実施

- ・奈良先端科学技術大学院大学に留学している大学院生と「未来創造会議」で発表する生徒を中心に、意見交換を行った。
- ・交流校であるバイロンベイハイスクール（オーストラリア）に3月に訪問し、ホームステイを行って生徒同士の交流を深め、また、課題研究についてのプレゼンテーションを行う。
- ・「公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター」が主催する『第28回日米草の根交流サミットシアトル・ワシントン州大会』に招待され、本校2、3年生で昨年大会においてホームステイを引き受けた生徒を中心に15名の生徒団を組織し、現地に派遣した。
- ・このほか、Isen 工科大学（フランス）、台南第一高級中学校（台湾）との交流に、1、2年生の有志が参加した。

③ UNWTO等が主管する国際会議への参加

- ・本年度はUNWTO主管の国際会議が県内で開催されなかったが、奈良県が実施する「東アジア地方政府会合」に参加した。初日は1年生10名が会場の運営協力、会議傍聴を行い、二日目は2年生9名が県内視察（エクスカージョン）にガイドの一員として同行した。今後も関係機関と連携し、生徒が国際会議等を経験できるよう進める予定である。

④ 海外留学に関する支援についての研究

- ・長期・短期留学生の受け入れ

8月から国際ロータリー青少年交換学生として、アメリカから長期で2名の留学生を受け入れた。1名は体調面等の都合により10月で帰国し、現在1名が第2学年に在学中である。

- ・本年度留学に派遣した生徒について

本年度海外へ留学した本校生は3名（2年3人）である。うち2名は、8月から1年間の長期でアメリカに留学している。

短期で留学した生徒は1名（2年（イギリス（3週間））であった。また、留学等の申請を行い審査待ちの生徒は5名である。

・留学支援について

本校には組織として留学生委員会が存在するが、派遣・受入の可否判断を行う機能しかないため、恒常的に留学派遣・受入を支援する組織・態勢づくりが検討されてきた。今年度は留学生の受入体制が変わってから始めて留学生受入を行う初年度として、SGH企画部内の担当を中心に留学生受入体制を再構築し、今後の派遣・受入の基盤づくりを行った。

⑤ 研究開発成果の普及

- ・7月にSGH3期生（3年生）の課題研究の集大成を発表する「未来創造会議」を実施。保護者や県内の高校教員に、英語による課題研究発表と提言、ポスターセッションを観覧いただいた。
- ・2月に「奈良 TIME 研究発表会」（奈良県教育委員会主催）において、県内各校の教務部長、管理職及び発表校生徒等に対して、本校2年生1班が課題研究の内容について発表を行った。
- ・2月にはSGH4期生（2年生）と5期生（1年生）による「SGH課題研究発表会」を実施。課題研究の発表等について、外部専門家による指導助言を受け、保護者と県内の高校教員等計50名の観覧をいただいて実施した。

7 目標の進捗状況、成果、評価

○本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

a 自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数（179人）

（例）あしなが学生募金、西日本豪雨募金をはじめとする募金活動、地域の清掃活動など様々なボランティア、国際ソロプチミスト認証など。

b 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数（12人）

長期の行き先はスウェーデン、アメリカ。短期はオーストラリア、アメリカ、カナダ、イギリス、フィリピン、タイ、韓国である。

c 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合（59.0%）

1年生：非常に思う19.2%、少し思う42.6%

2年生：非常に思う19.4%、少し思う35.5%

3年生：非常に思う24.6%、少し思う34.9%

3年生は、2年次には肯定的な回答がやや低かったが、3年次の回答では5ポイント弱上昇した。また、今年度の第1学年の肯定的な回答は、昨年より5ポイント以上上昇しており、入学生の意欲が変化していることが伺われる。

d 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数（41人）

小さな親切運動ポスター、読書活動推進ポスター、少年非行防止標語、人権標語、エコノミクス甲子園、WRO（World Robot Olympiad）、JICA国際協力エッセイコンテストなど。

e 卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合（18.8%）

12月実施のGTECでトータルスコア・グレード6以上（海外進学を視野に入れることができるレベル）の生徒およびグレード6未満で英検2級以上に合格している生徒の割合。昨年度と

大きな変化はないが、入学後の伸びは着実である。

○グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

a 課題研究に関する国外の研修参加者数（34人）

アドバンストコース海外フィールドワーク（オーストラリア8日間）、日米草の根交流サミット。

b 課題研究に関する国内の研修参加者数（272人）

京都大学での講義および学生との交流会、奈良県立医科大学での実習や、県教育委員会が主催する高校生国際セミナーへ参加した。また本校は奈良高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業の連携校となっており、様々な研究講座に参加した。

c 課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数（1校）

交流校であるオーストラリアのバイロンベイハイスクール。

d 課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）

（29人、うち6人は3回）

真辺将之氏（早稲田大学教授）、平田オリザ氏（東京芸術大学特任教授）、久保博子氏（奈良女子大学教授）、井上琢智氏（前関西学院大学学長）、アダルシュ・シャルマ氏（奈良先端科学技術大学院大学非常勤講師）、長野秀美氏（京都大学博士課程）、藤井千江美氏（モリンガの郷）、北村能寛氏（早稲田大学教授）、神戸大学大学院国際協力研究科留学生（3名）及び奈良先端科学技術大学院大学の留学生（大学院生6名）。

e 課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）

（9人、うち2人は2回）

新口絢子氏（NHKアナウンサー）、細川長人氏（橿原市総合政策部環境政策課長）、福田純一氏（国連世界観光機関駐日事務所副代表）、吉田順子氏（同 企画・渉外部シニアアシスタント）、アリアナ・ルキン・サンチェス氏（同 広報課長）、久保美智代氏（世界遺産研究家）、比留間大輔氏（(株)日本政策金融公庫大阪創業支援センター所長）

f グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数（45人）

観光甲子園、SGH甲子園、高校生ビジネスグランプリ（及び南近畿地区プランセッション）、科学の甲子園、数学甲子園、「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山など

g 帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む）（71人）

台南第一高級中学校（台湾）、Isen 工科大学（フランス）の生徒らが本校を訪問。アメリカから2名の長期留学生を受け入れた。

h 先進校としての研究発表回数（4回）

「未来創造会議」（7月28日）「SGH研究発表会」（2月9日）のほか、今年度は「奈良TIME 研究発表会」「第3回『地域と共にある学校づくり』つながりフォーラム」にて発表報告を行った。

i 外国語によるホームページの整備状況（○）

j 月平均の図書館の図書貸出冊数（約383冊）

なお、本校図書館の蔵書以外に生徒の希望する書籍を県立図書情報館と橿原市図書館より借り受けて授業等で使用する（年間150冊）が、これは数値には含めていない。

<添付資料>目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

○ 教科・科目について

- ・学校設定教科・科目について、最終的な発表の完成形を示しての指導について、効率的な指導方法を開発することができた。本事業において計画された教科間の連携（地歴公民科と情報科）については、予定どおり実施することができた。今後はこれを基盤とし、全ての教科が課題研究に取り組む中で、分担して課題研究に必要な力を第1学年から育成できるよう、連携調整を行っていく。

○ 海外研修について

- ・海外研修の事前・事後学習の在り方については、特に事前学習が重要であるという視点に立って海外研修委員を中心に研修テーマを設定し、訪問地や訪問内容を決定するようにした。研修後は、学年全体での2回にわたる報告会に向けて、授業中及び課外の活動を行い、ジャンル別に分かれて英語も交えながら発表を実施した。次年度は、事業終了に伴い目的地も変更する（シンガポール→台湾）が、今年度までに実施したカリキュラムをベースに、新しい目的地において実施できるより効果的な形を模索していく予定である。

○ 外部との交流について

- ・今年度は県国際課が主催する国際会議が県内で実施され、関わるすることができた。次年度以降も、予定に組み込み実施していく予定である。
- ・今年度は、生徒の主体性を重視しつつ、外部セミナーやコンテストへの積極的な参加を引き続き進め、昨年より更に活発な活動が見られた。学校外での発表やフィールドワークなどの体験が生徒を大きく成長させる機会であることを踏まえつつ、学校の教育計画との調整も行いながら生徒の主体性やスキルを様々な機会を捉えて引き続き成長させていきたい。
- ・SGH4期生には、報告書にあげた以外にも、部活動その他の形で、地域との連携や外部活動への活発な動きが見られるようになってきている。今後ますますこのような動きを、SGHの遺産として受け継ぎ更に発展させていくことで、生徒に国際的な視野と地域への責任感を担うリーダーとしての資質を培っていきたい。

【担当者】

担当課	奈良県教育委員会事務局学校教育課	TEL	0742-27-9853
氏名	新子 泰夫	FAX	0742-23-4312
職名	指導主事	e-mail	atarashi.y@nps.ed.jp